



発行・編集 全日本青少年育成アドバイザー連合会

事務局 愛媛県宇和島市三間町是能 202-40 TEL 090-8692-9182

アドバイザー養成受講生募集中!!

開催日：平成29年2月17日（金）～19日（日） 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

地域における日常的な各種青少年育成活動の中核となる青少年育成アドバイザー養成講習会を全日本青少年育成アドバイザー連合会主催、青少年育成アドバイザー東京会主管で、内閣府政策統括官【共生社会政策担当】、全国青少年育成県民会議連合会、独立行政法人国立青少年教育振興機構等のご協力やご支援をいただきながら青少年育成アドバイザー養成講習会（全日本コース）を国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）で開催します。

現在受講生を募っています。定員は80名で、希望者は充分受講できますので

- ① 青少年の育成指導・教育・支援等、幅広く青少年に関する活動や仕事をしている人。
- ② 青少年指導者としての基礎知識や今日の青少年を理解する手掛かりを学びたい人。
- ③ 住んでいる地域をいきいきとさせる手がかりや相談・助言について学びたい人など、幅広く募集します。応募をお待ちしています。（事務局）

講師・助言者のプロフィール（敬称略）



萩原元昭：群馬大学名誉教授、日本環境福祉学会理事。東京教育大学教育学部教育学科卒。東大・京大・阪大・広大・東京教育大学院講師、九州大学・東京家政大学大学院客員教授・青少年育成国民会議中央委員を歴任。日本保育学会常任編集委員会委員長、日本教育社会学会理事、日本社会教育学会名誉会員。著書に「子どもの参画—青少年参画活動支援の方法」「多文化保育論」「幼時教育の社会学」等。



柴崎武宏：東京理科大学理学部卒、日本カウンセリングアカデミー卒業、埼玉県立高校校長を退職後、埼玉大学、東洋大学、東京家政学院の講師を歴任。東京家政学院カウンセラー、さいたま市スクールカウンセラー、埼玉県青少年育成アドバイザー会理事、さいたま交流分析研究会長、日本学校教育相談学会埼玉県支部理事長。日本カウンセリング学会、日本教育カウンセラー学会会員。地域では少年補導員や保護司を務めている。



福留強：聖徳大学名誉教授、聖徳大学生涯学習研究所所長。国立鹿児島大学卒業。国立社会教育研究所教務課長、文部省社会教育官、九州女子大学生涯学習研究センター所長等を歴任。全国生涯学習まちづくり研究会の結成等、生涯学習まちづくりブームの仕掛け人として知られる。全国の自治体に呼びかけて、まちづくりボランティアとして創生運動、子どもをほめよう研究会やまちづくりコーディネーター制度を提唱している。



久田邦明：1950年、愛知県生まれ。静岡大学を卒業後、東大研究生、日本社会教育学会理事、社団法人神奈川県青少年協会理事、神奈川県青少年問題協議会委員などをへて、現在、神奈川大学、東京学芸大学の兼任講師とし社会教育主事講座や市町村行政の社会教育のあり方などを担当。平成26年著書に「考える思想」「子どもと若者の居場所」「生涯学習論」などがある。



下田太一：ビジネス関係でアメリカ留学後、子どものインターネット利用を考え啓発活動を行う両親の影響を受けて、「ネット時代の生き方を考える」を主たるテーマとして研究。子どもたちのネット活用や弊害、情報化社会における新たな生き方、ケータイ社会など、独自の研究に基づいた啓発・講演活動を実践中。NPO 青少年メディア協会事業部長を経て、現在はNPO 青少年メディア研究協会理事長及び合同会社ロジカルキット代表。



小俣 和義：青山学院大学教育人間科学部心理学科教授 臨床心理士。精神科臨床（常勤）、2001年青山学院大学に就任。専任講師、助教授（准教授）を経て、2011年より現職。2011年に東日本大震災心理支援センター運営委員となり、被災地宮城県での心理支援活動に携わる。現在、日本臨床心理士会 / 災害対策構想班協力委員。著書に「こころのケアの基本」（編著、北樹出版、2013）、「被災地のこころと向き合って」（分担執筆、エリート情報社、2016）等



山本邦彦：鳥取県三朝町役場に奉職し平成16年退職。平成16年から24年まで三朝町教育委員、同教育委員会委員長を歴任。昭和55年青少年育成国民会議指導者養成第1期生として青少年育成アドバイザーとなる。平成15年に鳥取県青少年育成アドバイザー協議会会長となり、「ありがとう100回運動」や「青少年育成に関心を持つ町づくり」を主導し現在に至る。平成27年6月から全日本青少年育成アドバイザー連合会会長。

日(曜)	プログラム	内 容	担 当
17日 (金)	開講式 13:30~14:00	主催者・来賓挨拶とオリエンテーション	主催者 後援者
	講義① 14:00~15:10	国の子ども・若者育成支援の取組について学びます。	内閣府共生社会政策担当官
	講義② 15:20~17:00	人間の成長・発達課程を軸に、それぞれの発達段階で、どんな関係や活動、経験が必要か学びます。	群馬大学名誉教授 萩原 元昭
	講義③ 18:30~19:30	今日の青少年育成アドバイザーの役割について考えます。	全日本青少年育成アドバイザー連合会会長 山本 邦彦
	意見交換会④ 19:45~21:30	課題別グループで参加者の自己紹介と活動状況について語り合い、幾つかの課題や問題を明らかにします。	助言者：小俣 和義（青山学院大学教授）、萩原 元昭、青少年育成アドバイザー役員
18日 (土)	講義と実習⑤ 9:00~12:00	青少年問題解決のための相談・助言（カウンセリング）の基礎と応用について学びます。	埼玉大学、東洋大学講師 柴崎 武宏
	講義⑥ 13:00~14:30	子ども・若者の居場所づくりを進めるためにどんな考えでアクションを起こすか考えます。	神奈川大学、東京学芸大学講師 久田 邦明
	講義⑦ 14:40~16:10	進化するインターネット社会の現状を知り、青少年育成者はどのように向き合い対応すればよいか学びます。	NPO 法人青少年メディア研究協会理事長 下田 太一
	講義⑧ 16:30 ~18:00	青少年健全育成は青少年育成に関心を抱き育む町づくりが重要なテーマとなります。そこでどんな発想で町づくりをすべきか実践例を交え学びます。	聖徳大学名誉教授 聖徳大学生涯学習研究所長 福留 強
	課題研究⑨ 19:00~20:30	課題別グループで明らかにした幾つかの育成課題や問題をより深め、整理し、解決するためのテーマを絞ります。	助言者：小俣 和義、萩原 元昭、下田 太一、久田 邦明、福留 強、他
19日 (日)	課題解決の企画立案⑩ 8:30~11:00	課題別グループで解決しなければならない絞ったテーマを、おかれた背景や必要な条件を検討し、具体的な方策を皆で知恵を出しあい立案し模造紙でまとめます。	グループアドバイザー：全日本青少年育成アドバイザー連合会役員。助言者：萩原 元昭、下田 太一 他
	全体会⑪ 11:10~11:40	グループ別で立案した方策を発表し、講師の先生からアドバイスをいただき、明日からのアクションを明確にします。	司会：グループ選出者 助言者 萩原 元昭、下田 太一 他
	閉講式 11:40~12:00	挨拶と修了証授与及び青少年育成アドバイザー認定までの予定を説明します。	主催者

新しくアド6名誕生

第2回目を11月29日に国立オリンピック記念青少年総合センター開催し委員長の萩原元昭群馬大名誉教授を始め9名の委員全員そろい、平成27年度アド養成講習会修了者が必要な書類の提出のあった方々を慎重審議した結果次の方々が青少年育成アドバイザー4期生として認定しました。4月21日の第1回アド認定委員会で22名認定と合わせて28名の新人が誕生いたしました。愛知県：中村美幸、沖縄県：比嘉蘭子、末吉斉、愛媛県：高橋ひかる、松田有香子、河野伸司さん。(事務局)



最後まで熱心に講習会を受け盛り上げた皆さん

生は2名でした。総会で東海北陸ブロックアド連会長に稲積重雪氏(富山県)、筆頭副会長に峠テル子(愛知県)が選任されました。

19日(土)は、石川県のアドバイザー協会の森江章氏が講師で、『青少年の理解と育成』をテーマで「青少年育成するために何をすべきか」についてのワークショップを行いました。地縁組織とNPOとの連携は必要としているところで力を借りるとよい、参加しない人を如何に参加させるかの意見交換など行いました。続いて、講義2で富山県のアドバイザー協議会事務局長の早坂陽子氏が講師となり、『青少年育成アドバイザーの役割』をテーマに行われました。グループワーク、グループ発表も行われ、理想的なアドバイザーは「連携ができる」「後継者をつくる」「人柄がいい」など活発に意見交換しました。

夜は懇親会が開催され、各県アドバイザーとの情報交換やメンバー同志の交流や特産物の披露行われ、それぞれが青少年育成アドバイザーのこれからの活動に対して、有意義な情報交換を行うことができました。

20日(日)、講義3は、福井県アドバイザー協議会会長の中村保之氏を講師に、『青少年行政と関係法規』のテーマで行われ、青少年健全育成の国の担当部署は内閣府で「子ども・若者育成支援推進法と支援推進大綱、地方公共団体の青少年育成行政の概要」など子供・若者白書の資料集等を参考資料として解説がありました。

講義4は、愛知県アドバイザー連絡協議会会員で豊田市アド会長の池野定雄氏が『青少年の相談・助言』をテーマに、教育者としての体験をもとに「不登校」の事例からなぜそのようになってしまったのか、共通する人柄・性格として「人を怖がる」「社会性の未発達」「自己肯定感喪失」「親からの言葉がけの不足」などを指摘。人は怖がらなくてもよいことを気づかせる。人とふれあうことの楽しさを体験させる必要がある。相談・助言は①話をよく聴く②解決策は本人が気づき、見つけることが大切③身体的な悩みは、治療できるものとできないものがあり受け入れてもらえるように話す等参考になる話があり

日本善行会表彰式でアド6名受賞

表彰式は11月26日(土)東京の明治神宮参集殿で行われ、全日本アド連の各ブロックから推薦のあった方々を全日本アド連として推薦し、このたびの受賞となりました。受賞者は大橋円昭(愛知県)、稲積重雪(富山県)、岩永知子(兵庫県)、松田正己(滋賀県)、池上宏(香川県)、谷口崇義(徳島県)さんの6名で、日本善行会の藤田耕三会長より表彰状と善行章(銅賞)をいただいた。社団法人日本善行会は、善行の表彰並びに善行精神の普及と善行の実践を通じて、明るい住みよい社会環境づくりに務め、もって国の発展と国際親善に寄与することを目的としています。(事務局)

東海北陸ブロックアド連福井大会

11月19・20日 福井パレスホテル



グループワークの成果を発表しました

東海北陸ブロック内における青少年育成アドバイザー活動の資質向上と実践活動の展開のため、ブロック内の会員が一堂に会し意見交換会や情報交換に努めることを目的として、毎年開催されています。内容はブロックアド連の総会と青少年育成アドバイザーの入門講座を兼ね初めて福井県で開催されました。

愛知県8名、岐阜県2名、福井県12名、富山県5名、石川県2名、合計で29名の参加があり、そのうちアドバイザー資格認定対象の受講

ました。

講義4は、愛知県アドバイザー連絡協議会会員で豊田市アド会長の池野定雄氏が『青少年の相談・助言』をテーマに、教育者としての体験をもとに「不登校」の事例からなぜそのようになってしまったのか、共通する人柄・性格として「人を怖がる」「社会性の未発達」「自己肯定感喪失」「親からの言葉がけの不足」などを指摘。人は怖がらなくてもよいことを気づかせる。人とふれあうことの楽しさを体験させる必要がある。相談・助言は①話をよく聴く②解決策は本人が気づき、見つけることが大切③身体的な悩みは、治療できるものとできないものがあり受け入れてもらえるように話す等参考になる話がありました。

講義5は、アドバイザー岐阜県連絡協議会長の堀要氏から、『地域コーディネーターとして』をテーマに、地域活動を通じて青少年育成を図っている現状について報告がありました。(愛知県アド連理事 光岡正和)

愛知県アド連第1回県アドフェスティバル開催



親子でクラフトに挑戦

アドバイザーの得意分野を活かすこと、情報モラル普及啓発、地区部会活動の活性化をめざし名古屋市の鶴舞公園で実施しました。出展は各部会で相談し決め、尾張部会は「新聞紙で作る即席スリッパ」「アンパンマン手さげ袋」「スマホ使いの迷人から名人になろう!!」、名古屋部会は「赤いカップで世界を知ろう!!」「簡単ひねり竹とんぼ作って記録に挑戦!!」「なわとびで楽しもう」、豊田部会は「パックでぴょん&ぶんぶんゴマで遊ぼう」「飛ばそう割りばし飛行機」、岡崎・三河部会は「牛乳パックで笛と手裏剣を作ろう」「防犯グッズ紹介と子育てインフォメーション」と10のブースを出しました。



紙芝居でネット安心利用啓発

クラフト作りや紙芝居、体験など親子で、それぞれ30分以内のできる工夫や「記録挑戦会と表彰式」「スマホの安心利用トーク」、中部大学生とのコラボのスマホ安心利用紙芝居など、アドらしさにも心がけました。

延べ450名の参加があり、楽しい時間が過ごせたと好評でした。開催にあたり、共催に名古屋市と名古屋みどりの協会、後援に愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会など12機関・団体。開会式では愛知県県民生活部社会活動推進課長浅野宏明様から激励の挨拶をいただくなど関係各位からご支援を得ました。

(愛知県アド連事務局長 宇野晃)

平成28年宮城県青少年育成アドバイザー養成講習会 !

平成28年11月12日(土)仙台市市民活動サポートセンターにて、平成27年度に引き続き、宮城県青少年育成アドバイザー養成講習会を開催いたしました。

宮城県・宮城県教育委員会・青少年のための宮城県民会議・仙台市、そして全日本青少年育成アドバイザー連合会より後援をいただきました。“地域の子どもは地域で育てよう”をスローガンに掲げ、昨年度は17名の受講者があり、今年度も昨年に続けと願い、会員一丸となり受講者を募りましたが7名の受講者と12名の会員(再



受講)で実施しました。

講習会は伊藤会長の挨拶に始まり

講義①

全アド連の現状と今後の方向性

(青少年育成の考え方やねらい、アドバイザーの役割)で全日本アド連 山本 邦彦 会長

講義・演習②

相談・助言のためのカウンセリング、コーチング等の基本と実技

東北大学大学院教育学研究科准教授 若島 孔文 先生

講義③

家庭教育支援について

県教育庁生涯学習課社会教育推進 成瀬 啓 先生

講義④

青少年行政施策や実践事例

宮城県共同参画社会推進課青少年育成班 小池 源一 先生

講義⑤

青少年の発達課程の特徴と育成の課題

宮城教育大学教育職大学院教授 宮前 理 先生



充実した研修を終えた受講者・講師

そして最後には事務局連絡として入会手続きや全日本コースでの資格取得説明をしたのち、入門コースでの修了証書が渡され閉会となりました。

アンケートにはどの受講者も有意義な時間と今後成すべき方向性が見出され、次へのアクションに繋げることができる足がかりとなったようです。

情報交換会においても講習会内容への讚美の声がささやかれていました。

今年度で2度の講習会を開催し会員15名から33名と活動範囲を広げられる大きな組織となりました。この大きな力を青少年のために個々のもてる力、新旧会員の様々な角度からの意見を総結集させ、また社会情勢を鑑みながら宮城県や仙台市と協働のもと、将来を担う子どもたちの健やかな成長を願って活動できる礎を築く一助となったことを報告いたします。

(宮城県アド連 千種八重子)

第3回理事会報告

11月29日(火) 国立オリンピック記念青少年総合センターで第3回理事会が開催されました。山本会長より総会の議決に基づいた活動を確実にやっていきたい。その中で国の青少年育成の理念法的な青少年育成基本法の制定に向けて関係する国会議員に働きかけている。アドの皆様も地元出身の代議士に働きかけて欲しいと挨拶があった。その後、次の報告が各委員長からあった。

◎基本問題特別委員会

7月から調査票表で①県アド連の活動①青少年育成県民会議の連携についてアンケートを行った。

その結果28県中13県アド連から報告があった。報告のあった会員数432人平均年齢59.7歳、中身を検討すると活動内容では県アド連は連携するが主催する事業が少ない。会計の状況では補助金・助成金をもらっている富山県、鳥取県、広島県、賛助会費(15万円)を集めている愛知県など。県レベルの養成講習会の可能性があるのは7県。活動すすめる上で改善すべ事項として、
①後継者の養成
②事業に参加するする人が固定化される
③アドとして自覚をもって活動すること
④県アドのできる活動を増やしたい等希望があった。

また、県民会議連合会加入12、県民会議のとの連携度平均3.6(1~5段階)で5が石川県、宮城県。ありがとう100運動の、のぼり希望、バッジの注文は現状で8県である。

全日本アド連の養成講座受講者数などを総合すると、都道府県組織を維持すること自体も厳しい状況にあり、このままだと、更に中央のアド連本体も存続も危うい状況が見えてくる。このことから全日本アド連が10年後も持続させる方策を至急つくるのが肝要だ。そのため、各県代表等と「メール・ミーティング」を随時行い、情報の共有と意見交換を行っていくこととした。

◎後継者養成委員会

27年度養成講習会に受講した人35名中、所定の書類を提出した方で、2回の認定委員会で28名青少年育成アドバイザー第4期生として認定した。それぞれの県アド連または所属する団体で活躍されることを期待している。認定登録料を払った方は、認定証とバッジを交付し、アドたより2年分を配布するようにした。

今年度は東京都で開催しますが、各県新人2人、既アド2名の必達を目指して取組んでほしい。今までは実績のある愛知県で開催したが今回は新しい地域で、新たな人材の発掘という面で、東京都をはじめとする関東ブロックで多くの参加者を集めてほしい。

◎広報財務委員会

アドバイザーバッジの注文が23個と採算ベースに乗らない。今1個1,800円するが、もう少し安くできないか検討する。のぼりは「伸びよう伸ばそう青少年」「大人が変われば子どもが変わる」「子どもが伸びるチャンスを活かそう」「地域の子どもは地域でそだてよう」「ありがとう100回運動」のスローガンとする。その下に全日本青少年育成アドバイザー連合会、または各都道府県アド連を入れる案を示し、早急にデザインの希望

をとることとする。組織の NPO 化については引き続き別途資料に基づき次回総会まで県アド連の意向を集約し検討する。

新アドの声



おせっかいおばちゃん

名古屋市東区 中村 美幸

現在、仕事で非行少年の立ち直り支援に関っています。農作業や学習支援、スポーツや各種物作りなどを通じて少年たちと関係を築いていく上で

- ・育った環境や家族とのつながりの重要性
 - ・少年自身の存在価値や自己肯定感を高めるための環境（居場所）の必要性
- を実感しています。

今は仕事として非行少年らにかかわる活動が主ですが、すべての少年たちの原点は家庭であり、その家庭を支えるのが地域であるという観点から、基本である生活レベルで問題が生まれにくい環境づくりをすることを目標に、今後の青少年育成活動を進めていけたらと考えています。

具体的にはまず、「地域のおせっかいおばちゃん」になること。我が家では現在4世代9人家族です。保育園児、小学生から社会人、後期高齢者までいる中で、子ども会、PTA、トワイライト、老人会、お祭りなどの地域行事等、幅広く地域と関わっています。

そんな環境＝立ち位置を上手に利用して「あいさつ」を始めとした「声かけ」を積極的に行い、顔の見える地域の「おせっかいおばちゃん」になり切ることが、今の仕事である「非行少年を生まない環境づくり」につながる青少年育成活動であると確信しています。

(※中村さんは11月29日の全日本アド連アド認定委員会で認定されました＝事務局)



伸びよう伸ばそう青少年

子どもが伸びるチャンスを生かそう

大人が代われれば子どもが変わる

「ありがとう」一日百回運動

今後の予定

平成28年青少年育成アドバイザー養成講習会（全国版）

日時 平成29年2月17日（金）～19日（日）

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
東京都渋谷区代々木神園町3-1

内容 講義とワークショップ、交流会

参加費 2泊3日 20,000円

参加希望者は各都道府県アド連事務局まで連絡下さい。

【編集後記】

11月29日の理事会で「今から10年後にアドはどうなっている」と問いかけがありました。参加の理事の方々は80歳を超え、足腰や頭脳も衰え、青少年育成どころではなくなって、生きるのが精一杯と予想されます。となるとアドは消滅してしまう運命になってしまいます。青少年を健全に育成することは国造りの根幹で大人たちの願いであり、全日本アド連の基本方針であります。官民が一体となって取り組んで達成されます。組織を存続させ青少年育成基本法制定を目指さなければなりません。アド養成事業の講習会が2月に東京であります。他人事と思はず主体的に取り組む成功させなければなりません。会員の皆様の協力をお願いいたします。（編集担当）